

感染症発生動向調査委員会報告 11月

《今月のトピックス》

- インフルエンザが例年より早く流行期に入りました。
- RSウイルス感染症の報告が多い状態が継続しています。
- 感染性胃腸炎、伝染性紅斑の報告が増加傾向です。
- 海外(ベトナム)での麻しん感染例が報告されました。

全数把握疾患 11月期に報告された全数把握疾患

細菌性赤痢	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	6件
腸管出血性大腸菌感染症	6件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
デング熱	2件	水痘(入院例に限る)	1件
レジオネラ症	5件	梅毒	2件
アメーバ赤痢	6件	風しん	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	麻しん	1件
急性脳炎	2件	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1件

＜細菌性赤痢＞ *Shigella sonnei*(D群)の報告が1件あり、渡航先(インド:デリー)での感染が推定されています。

＜腸管出血性大腸菌感染症＞計6件の報告がありました。原因が明らかになった集団感染はありませんでしたが、家族内感染が1件ありました。家庭内での2次感染予防では、手洗いをしっかりと行い、下痢症状がある人は専用のタオルを使用し、トイレは常に清潔に掃除して、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは特に念入りにきれいにすることが大切です。

＜デング熱＞海外感染例が2件(タイおよびベトナムでの感染)報告されました。全国で、11月以降国内感染例は報告されていません。

＜レジオネラ症＞肺炎型5件の報告がありました。現在感染経路等調査中です。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症5件、腸管外アメーバ症1件の報告がありました。

＜カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症＞4件の届出があり、1件は膝関節炎で *E. cloacae*、もう1件は尿路感染症で *E. cloacae*、もう1件も尿路感染症で *E. cloacae* および *Morganella morganii*、残る1件は血液から *E. cloacae* が検出されています。

＜急性脳炎＞2件の報告(1歳7ヶ月児、40歳)がありました。病原体検索中です。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞AIDS1件、無症状病原体保有者5件の報告があり、すべて同性間性的接触による感染でした。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞乳児1件、成人4件報告がありました。乳児(2ヶ月児)は13価結合ワクチン接種歴が1回有りでした。成人例(40歳代1例、50歳代1例、80歳代2例)では予防接種歴は確認できませんでした。

＜水痘(入院例に限る)＞平成26年9月19日から入院例に限り届出が必要になりました。3歳児の届出が1件ありました。予防接種歴は確認できませんでした。

＜梅毒＞早期顕症梅毒 I 期1件(異性間性的接触による感染)、無症候期1件(同性間性的接触による感染)の報告がありました。

＜風しん＞2歳児の臨床診断例(予防接種歴1回有り)が1件ありました。

＜麻しん＞20歳代男性の検査診断例(遺伝子型D8)の報告がありました。予防接種歴は本人からの聞き取りでは1回有るとのことでした。渡航先(ベトナム)での感染が推定されています。海外からの感染を広げないためにも予防接種が大切です。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「[麻しん検査診断アルゴリズム](#)」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期のPCR検査が有用です。検査については最寄りの福祉保健センターにご連絡ください。

＜薬剤耐性アシネトバクター感染症＞平成26年9月19日から全数届出疾患になりました。70歳代の届出が1件ありました。

定点把握疾患

平成26年10月27日から平成26年11月23日まで(平成26年第44週から平成26年第47週まで。ただし、性感染症については平成26年10月分)の横浜市感染症発生动向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

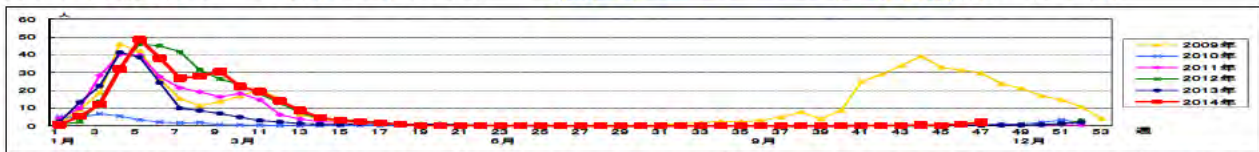
平成26年 週一月日対応表

第44週	10月27日～11月 2日
第45週	11月 3日～11月 9日
第46週	11月10日～11月16日
第47週	11月17日～11月23日

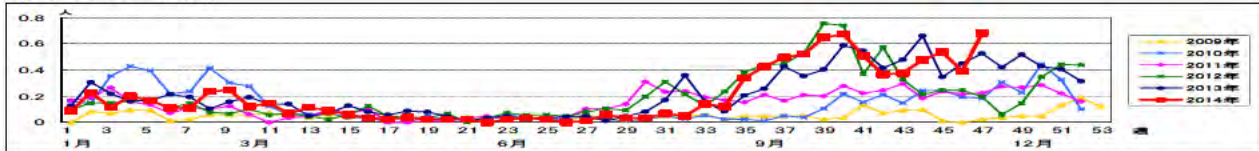
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

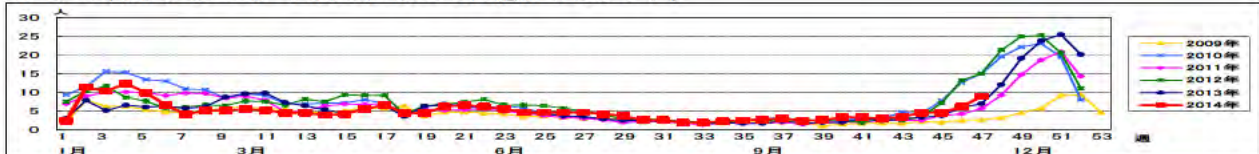
<インフルエンザ>第47週は市全体で定点あたり2.16と、流行開始の目安となる1.00を上回り、昨年より4週間早く、最近5年間でも最も早い流行期入りとなりました。区別では都筑区7.33で最も多く、次に戸塚区6.56、泉区4.14などと、13区で1.00を上回っています。学級閉鎖も第43週1施設、第46週1施設、第47週5施設と増加しており、現在もさらに報告が続いています。第47週の迅速キットの結果ではA型98.3%、B型1.2%、ABともに検出0.4%(小数点第2位四捨五入)と、ほとんどがA型です。[全国のウイルス検出状況](#)ではほとんどがAH3亜型(A香港型)です。今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策が重要です。 ◆[横浜市インフルエンザ臨時情報](#)(衛生研究所)



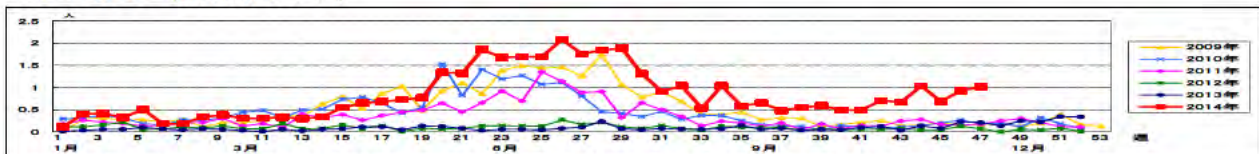
<RSウイルス感染症>第47週は市全体で定点あたり0.68と今シーズン最多になり、報告数の多い状態が継続しています。



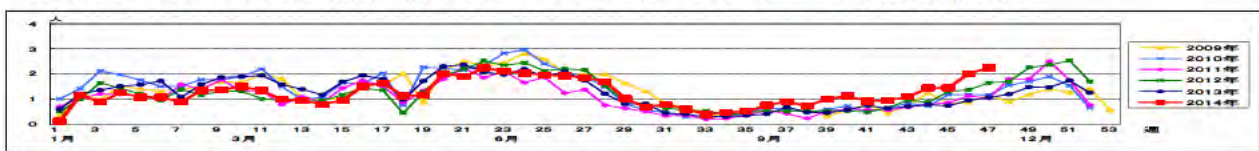
<感染性胃腸炎>第47週は8.79と増加傾向です。集団感染の報告も寄せられており、これからの季節にかけて増加することが予想されるため注意が必要です。



<伝染性紅斑>8月頃は減少傾向を示していましたが、その後下げ止まった後、第47週は市全体で定点あたり1.01と増加傾向です。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>第47週は市全体で定点あたり2.24と増加傾向です。



<性感染症>10月は、性器クラミジア感染症は男性が15件、女性が19件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が8件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が9件、女性が2件でした。

<基幹定点週報>マイコプラズマ肺炎は第44週1.50、第45週0.50、第46週0.00、第47週0.00となっています。無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>10月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症7件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみに行っています。

<ウイルス検査>

11月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点43件、眼科定点3件、基幹定点3件、定点外医療機関13件でした。

12月8日現在、ウイルス分離12株と各種ウイルス遺伝子24件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(11月)

分離・検出ウイルス	臨床症状	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *	R S 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱 **	胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	発 疹 症
アデノ 2型					1	2			
インフルエンザ AH3型		1	1	4 1					
パラインフルエンザ 2型		1	1						
パラインフルエンザ 3型						1			
パラインフルエンザ 4型		1							
RS		4	3	1	2	1			
ヒトコロナ OC43型			1						
ライノ		1	3		1				
コクサッキー B5型			1						
エコー 11型								1	
B19									1
単純ヘルペス 1型						1			
ノロ							1		
合計		2 6	2 8	4 2	1 3	3 2	0 1	0 1	0 1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数、*:疑い含む、**:アデノ感染症含む

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

11月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から4件、その他が11件で、腸管出血性大腸菌(O157:H7、O157:H-、O146:H21、O26:H11)、赤痢菌(*Shigella sonnei*)、ウェルシュ菌(エンテロトキシン産生)が検出されました。赤痢菌はインドへの渡航者から、O157:H-(VT1&2)はフランスへの渡航者から検出されました。小児科定点からはありませんでした。

その他の感染症は小児科からが6件、その他が9件、基幹定点からはありませんでした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(11月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	11月			2014年1月～11月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌		1			2	1
腸管病原性大腸菌					1	
腸管出血性大腸菌			7		1	95
腸管毒素原性大腸菌					3	
腸管凝集性大腸菌					1	
チフス菌					1	
サルモネラ					25	7
カンピロバクター				1		4
NAGビブリオ						1
ウェルシュ菌		1			1	
不検出	0	2	4	3	46	19

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	11月			2014年1月～11月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌						
T1	2			5		2
T4	1			10		
T6				6		
T9						1
T11				1		
T12				6		
T22						1
T B3264				2		
型別不能				3		1
B群溶血性レンサ球菌					4	18
D群溶血性レンサ球菌						2
G群溶血性レンサ球菌						3
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					19	2
<i>Legionella pneumophila</i>						8
インフルエンザ菌	1			1		8
肺炎球菌			7	1		76
<i>Neisseria meningitidis</i>						1
黄色ブドウ球菌				1		
結核菌						4
百日咳					1	
その他					10	6
不検出	2	0	2	7	1	44

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】